

琉球大学医学部・附属病院の西普天間住宅地区への移設について

地域の活性化と国内外に対する国際医療拠点を実現

琉球大学医学部

- ① 我が国で最も新しい国立大学医学部として昭和54年10月に設置されました。
- ② 沖縄県下唯一の医師育成機関である**医学科**と、看護師や臨床検査技師等の保健・医療従事者の育成を行う**保健学科**があります。医学部の卒業生は沖縄県内の各医療機関の現場の第一線で活躍しています。
- ③ 研究面においても、我が国唯一の亜熱帯気候下に位置する島嶼県として、沖縄の地域特性に根ざした特色ある研究に力を入れています。
- ④ 教職員 約 500名、学部学生・大学院生等 約1,150名の規模を誇る教育・研究機関です。



国際医療拠点

医学部及び附属病院の新キャンパスとなる宜野湾市西普天間地区は、約4,000名の人活動する「国際医療拠点」になります。

医学部附属病院

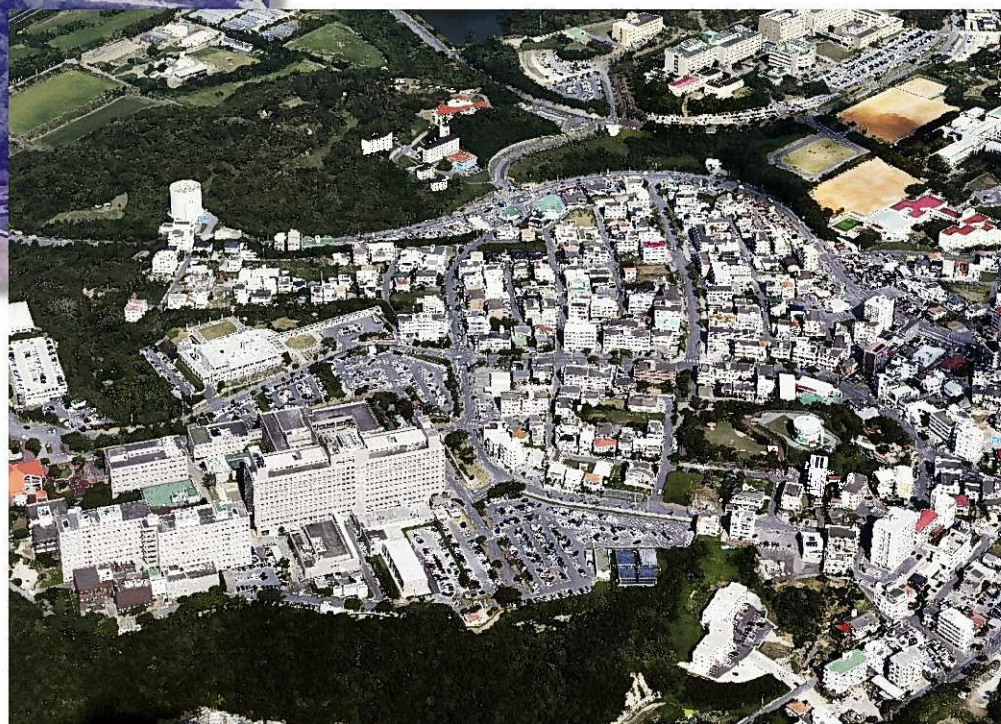
- ① 医学部と同じく、我が国で最も新しい国立大学医学部附属病院として、昭和59年に設置されました。
- ② 沖縄県下唯一の**特定機能病院**として、感染症やがん、心臓・循環器疾患、肝疾患、骨髄移植等の県内における高度医療を担うとともに、離島医療を含む地域医療にも寄与しています。
- ③ 附属病院は、医師約360名、看護師約630名、薬剤師、臨床検査技師等の医療スタッフ約350名が勤務しており、沖縄県の医療の中核を担っています。
- ④ 附属病院の事業規模は年間約172億円収益、1日平均で約500名余の入院患者と約1,200名の外来患者に加え、御見舞客や薬品等の納品業者が来院します。

琉球大学医学部・附属病院の西普天間住宅地区への移設について

地域の活性化と国内外に対する国際医療拠点を実現



移転当時の医学部・附属病院
立地環境(S58)



医学部・附属病院の現在、市街
化した環境(H26)